釜石の地域医療復興を願って

～加古川市加古郡医師会よりの義援金贈呈に際して～

釜石医師会　殿

この度の東日本大震災は東北地方各地に甚大な被害をもたらし、それでなくても厳しかった地域医療体制にも一層深刻な打撃を与えたことについて、心よりお見舞い申し上げ、多くの犠牲者に哀悼の意を捧げたいと存じます。

とりわけ、貴地釜石にありましては、管内医療機関数の約 1/3 に及ぶ機能停止となる被害を受けられ、いまだ行方不明の会員もおられる中、仮診療所をはじめ懸命の復旧を図られているとお聞きしました。

「ラグビーの街」としても全国に知られる貴地は、戦時中の米軍の艦砲射撃や戦後の産業構造転換の波の中から幾度も復興してきた歴史があり、それを支えてきた地域住民の絆の強さと「希望」について、東京大学社会科学研究所「希望学プロジェクト」のモデルともされて来られたことを、実は、私どもは、ある契機で知りました。

昨年１１月に加古川でプライマリ・ケア学会近畿地方会を開催するにあたり、その総合テーマを『希望としての地域医療とケア』とさせていただき、一千人を越える参加者で盛況裡に終えることができました。その「希望」という言葉は、厳しい医療・経済情勢の中から、上記の貴地での取組のキーワードを転用させていただき、「街づくりとしての医療」を展望したものでした。

それが今回の巡り合わせとなってしまった訳ですが、しかし、釜石の方々の粘り強い戦いとその「希望」は、これくらいで後退するものではないことも私どもは確信しております。釜石医師会もその只中に在って、基幹病院・診療所一体となって日夜ご奮闘のことと存じ上げます。

私ども医師会会員もささやかながら兵庫県医師会の派遣隊の一員として、宮城・石巻の被災地支援に出務してきましたが、多くの会員から寄せられた義援金の内、日医を通しての被災地医療全体への支援金はもとより、以上の経緯を踏まえた貴地・釜石医師会への直接的支援をもって、その地域医療復興に僅かでもお役に立てればと贈呈の次第、お受け止めいただければ幸いです。

平成 23 年 5 月 27 日
加古川市加古郡医師会
会長　河合　勝　　会員一同